

目 次

「Ctrl」キーを押しながら目次欄（下線部分）をクリックすると、
該当ページまで移動します。

出席委員	2
討論及び採決	4
特別委員会報告書の作成について	13

※本会議録で使用している漢字は、汎用性等を考慮し、「JIS第1水準漢字」を使用しています。
このため、人名や地名などの固有名詞等において、実際の漢字とは異なる標記となっている場
合があります。

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

平成29年 利府町議会決算審査特別委員会会議録（第5号）

平成29年9月15日（金曜日）

出席議員（1名）

議長 櫻井正人君

出席委員（17名）

委員長 後藤哲君

副委員長 遠藤紀子君

委員 鈴木晴子君

小淵洋一郎君

木村範雄君

吉岡伸二郎君

鈴木忠美君

永野涉君

渡辺幹雄君

羽川喜富君

西澤文久君

安田知己君

土村秀俊君

高久時男君

吉田裕哉君

及川智善君

郷右近隆夫君

欠席委員（なし）

説明のため出席した者

町長 鈴木勝雄君

副町長 伊藤三男君

総務課長 折笠浩幸君

政策課長 小幡純一君

財務課長 高橋三喜夫君

税務課長 阿部智子君

収納対策室長 高橋信君

町民課長 伊藤智君

生活安全課長 櫻井浩明君

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

保健福祉課長	菅井百合子君
子ども支援課長	阿部義弘君
都市整備課長	櫻井昭彦君
産業振興課長兼農業委員会事務局長	高橋徳光君
上下水道課長	大友政一君
震災復興推進室長	村田政文君
生涯学習課長	庄子敦君
会計管理者兼会計室長	櫻井やえ子君
教 育 長	本明陽一君
教 育 次 長	佐藤博昭君
教育総務課長	庄司幾子君
代表監査委員	宮城正義君
監査委員事務局長兼 選挙管理委員会事務局長	鈴木正敏君

議会事務局職員出席者

事 務 局 長	鈴木則昭君
主 幹	櫻井涉君
主 任 主 査	利玲子君
主 事	三浦麻理恵君

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

午前9時35分 開 議

○委員長（後藤 哲君） これより決算審査特別委員会を再開します。

ただいまの出席委員は17名です。

暑い方は、上着を脱ぐことを許可します。

これより審議に入ります。

本特別委員会に付託された平成28年度利府町各種会計決算について、討論、採決を行います。

初めに、認定第1号 平成28年度利府町一般会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。討論ありませんか。

最初に反対討論。6番 木村範雄君。

○木村範雄委員 認定第1号 平成28年度利府町一般会計歳入歳出決算の認定について、反対の討論を行います。

平成28年度一般会計決算は、歳入総額151億3,322万743円、歳出総額137億1,862万574円、前年度に比べて歳入で4億8,000万円の減額、歳出で2億5,000万円の増額でした。当初予算と比べれば、歳入で1億7,000万円の増、歳出で12億4,000万円の減額です。このうち、復興関係の復興推進復興整備費は30億1,800万円、翌年度繰越額は19億1,400万円ということは、平成27年度に比べると繰越額も少なくなり、事業費の支出も多くなり、事業が進んでいることを認めることはできますが、須賀・浜田地区に住んでいる住民にとっては速やかな完成を望んでいることと、契約上の無駄な支出を避け、生活関連のさまざまな対策を速やかに行い、もとの生活に戻るまちづくりを行わなければならないことを指摘しておきたいと思います。

利府町は、施政方針で4つの主な主要施策を掲げ、震災復興計画及び総合計画に基づく6つの施策を打ち出しましたので、これに基づいて平成28年度を振り返りたいと思います。

1点目は、震災復興への加速化と地方創生に向けたチャレンジです。

ここでは、震災復興への加速化とつながり創出プロジェクトとして多種多様なつながりの創出をつくり、新たなチャレンジとして大学やグランディ21等との連携により新たな人材の育成やNPO等の創出、起業・創業活動の拠点整備を掲げましたが、単年度で成果が出るものではありません。特に、受講者の個人的達成感に終わるのではなく、参加した後に地域貢献や社会貢献に発展していかなければ事業目標は達成できません。起業・創業セミナーや相談活動も含め、次年度以降の取り組み方に事業本来の成果が委ねられることになりました。

2点目は、少子高齢化に対応した切れ目のない町民サービスの展開についてであります。

ここでは、安心して子育てできる環境づくりと生涯現役として住みなれた地域で安心して暮

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

らすことのできる地域づくりの推進が掲げられましたが、子ども医療費の18歳までの拡大と所得制限撤廃は評価できるものの、小学生からの一部負担金の導入と学校徴収金支援事業の廃止は、単年度では負担が大きくなった町民が多くなることになりました。また、高齢者福祉事業、介護保険事業による地域包括ケアシステムの構築で、地域包括支援センターを2カ所に増設しましたが、国の方針どおりの運用ではなく、利府町が主体性を持ってお年寄りに寄り添った事業形態を考えていかなければ、花が咲き、実がなることは難しいと思います。

3点目、持続可能な発展につながる成熟した都市基盤づくりについてであります。

ここでは、新中道土地区画整理事業、新太子堂地区での市街地の形成、白石沢地区の市街化区域の編入による土地の活用が言われています。利府町の活性化のためには市街化区域をふやすことが必要であり、今回の計画的な見直しでは全体の市街化区域面積はふえていないということと、長年の懸案となっている幹線道路の渋滞緩和対策が解決されていないということは新たな課題だと思えます。

また、文化複合施設については、町民の声を聞きながら基本設計策定を行ってきました。都市再生整備計画による交付金だけではなく、町民の負担を少なくするために新たな補助金や起債を獲得していかなければ住民負担の軽減にはなりません。さらに、利府街道からの流入・流出対策をきちんと考えて事業を遂行することが必要です。

4点目は、行政改革のネクストステージへの進展についてであります。

ここでは、行政サービスとして住民票等のコンビニ交付、身の丈に合った住民サービスとして敬老祝い金の削減、学校徴収金支援事業の廃止、受益者負担での手数料の見直しは住民負担の増大でしかありません。また、平成28年度の住民票等のコンビニ交付を利用できる人は、選挙人名簿の定時登録者2万8,756人に対し、個人番号カード保有者3,330人で12%弱の人しか利用できません。私はマイナンバー制度の弊害を心配するものであり、新たな対応が必要になると思えます。

最後に、行政主体からの脱却では、地域課題の解決を公益活動団体に任せ、協働の基盤づくりのために若者の政策参画を諮るとしてはいますが、その成果はいまだあらわれていません。今求められているのは、町が積極的に地域課題の解決のために各行政区に出向き、協働での協議を行い、解決に向けて取り組むことが必要だと思えます。

平成28年度一般会計当初予算の反対討論で、私は基礎自治体である利府町の最大の責務は、住民の安全と安心、住民の福祉の増進を最大限に図り、住んでよかった、住みたい利府町にするために努力することだと述べました。行政改革、合理化の中で、スクラップアンドビルドの

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

言葉が出ていました。スクラップ、これまでのサービスを切り捨て、ビルド、新たなサービスをつくり上げる。このときにどうしても全体のサービスが切り下げられることを防ぐことが行政の課題となります。利府町は子育て世代支援の町、生涯現役として住みなれた地域で安心して暮らすことのできる地域づくりの推進のために、ビルド・アンド・ビルド、行政サービスの拡充が一部なされていないことを述べて、討論とします。

以上です。

○委員長（後藤 哲君） 次に、賛成討論。10番 鈴木忠美君。

○鈴木忠美委員 それでは、認定第1号 平成28年度利府町一般会計歳入歳出決算の認定に対し、賛成の立場から討論いたします。

歳入決算額につきましては、復興事業の進捗に伴い、震災復興特別交付税が減少したことにより、前年度と比較して4億8,052万円減の151億3,322万円となりました。

一方、歳出決算額は、復興事業の進捗により、浜田地区防潮堤整備事業を初めとする普通建設事業が大幅に増加したことにより、前年度と比較し2億5,130円増の137億1,862万円となり、歳入歳出差額が14億1,460万円で、翌年へ繰り越すべき財源10億6万円を除き4億1,454万円が実質収支額となり、そのうち2億5,000万円を財政調整基金に積み立てました。

昨年に引き続き高い水準での決算額となっておりますが、これは東日本大震災に伴う復興事業に要した費用が含まれているからであり、今年11日で震災の発生から6年半が経過しましたが、被害の大きさを改めて痛感するとともに、一日も早い復興を願うものであります。

次に、基金残高についても、昨年度に引き続き東日本大震災の影響が大きいものとなっております。東日本大震災復興交付金から繰り入れなどによりまして13億1,122万円減の47億5,032万円となっております。

なお、財政調整基金につきましては、財政を補うため6億9,758万円の繰り入れを実施しておりますが、昨今の地方財政を取り巻く厳しい財政状況の中ではいたし方がないものと考えております。約18億2,870万円の残高を確保し、適正な財政運営ができたものと評価するものであります。

平成28年度における行政運営は、通常の行政運営に加え、震災復興関連事業も行い、町長を初め職員が一丸となって住民サービスの向上と的確な対応に当たられたことは、大いに評価できます。

次に、平成28年度の施政方針に示された4つの重点施策について検証してまいります。

初めに、震災復興への加速化と地方創生に向けたチャレンジであります。

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

復興事業は、予定された各種事業に着手し、津波対策として防潮堤、水門整備事業、地盤沈下に伴う排水対策としてはかさ上げ事業や排水機能強化事業など、被災地域の環境整備に取り組まれていることは評価するものであり、一日も早く復興を果たし、沿岸部の皆様が安全に安心して暮らすことができるよう、引き続き努力を望むものであります。また、かねてより整備を進めていた浜田地区の避難路の整備が完了したことは、有事の際に国道45号線から内陸部へ速やかな避難が可能となり、効果が期待されるものであります。

次に、地方創生関連ですが、利府町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、駅前に整備した利府町まち・ひと・しごと創造ステーションにおいて、起業・創業セミナーや地域資源を活用した各種イベントなどを開催し、新たな仕事づくりやにぎわいの創出につながる取り組みが進められております。また、フリーペーパーやSNSでの積極的な情報発信により、町内外から関心も高まり、今後も本町の地方創生の拠点として魅力的な事業展開をしていくことを期待するとともに、魅力ある持続可能な町を次世代に引き継ぐための取り組みとして大いに評価するものであります。

次に2点目、少子高齢化に対応した切れ目のない町民サービスの展開であります。

本町では、子育て支援の町を目指し、これまでも町独自のさまざまな子育て支援や子育てしやすい環境整備に取り組んでいるところでございますが、平成28年10月診療分から子ども医療費助成の対象年齢を18歳まで拡大したことは、子育て世代の方々の経済的な負担軽減や安心して子育てできる環境づくりとして大いに評価するものであります。

次に、教育環境整備については、利府小学校建てかえ事業や利府中学校トイレ改修事業を実施するなど、未来を担う子供たちが快適な学校生活を送れるよう、学習環境の向上に寄与したと考えます。

また、高齢者福祉事業については、平成28年10月からしらかし台地区に利府町北部地域包括支援センターが増設され、相談体制の充実や生活支援など、住みなれた地域で安心して暮らすことのできる地域づくりに努めております。

次に3点目、持続可能な発展につながる成熟した都市基盤づくりであります。

人口減少、少子高齢化の進展など、地方自治体を取り巻く社会情勢が刻々と変化しており、国の重点政策である地方創生による自治体間競争の激化が予想されております。このような状況を踏まえ、時代の流れや町民ニーズなどを踏まえた将来の町の行政運営の指針となる総合計画の見直しとして後期5年計画の作成を行ったことは、社会情勢の変化に的確に対応し、持続可能な発展につながる成熟した都市基盤づくりにつながるとして、大いに評価します。

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

また、都市計画事業については、工業流通業務地として土地利用が計画されている白石沢地区の市街化編入手続が完了したことは、本町の新たな産業拠点として期待するものであります。

このほかにも、利府街道に隣接する新太子堂についても、飲食店やコンビニエンスストアがオープンし、良好な市街化地域が進められ、文化複合施設整備事業についてはワーキンググループから意見や提案などを取り入れ、基本設計が策定され、にぎわいあふれ、誰もが利用しやすい親しまれる施設整備を望むものであります。

また、かねてより整備を進めておりました町営たてやま霊園が完成したことは、町民の墓地需要の多様化に伴う町民ニーズに応えるものとして、大いに評価するものであります。

最後に、4点目の行政改革のネクストステージへの進展であります。

本町では、これまでもさまざまな行政改革に積極的に取り組んでおりますが、財政状況の緊迫化や市町村間競争の激化や多様化する住民ニーズに対応するため、第5次行政改革大綱を作成し、町民目線、前例打破、費用対効果など、職員一人一人が意識改革や前例にとらわれない創意工夫と柔軟な発想により、組織全体として行政サービスの質の向上や行政事務の効率化に向け、より効果の高い行政改革を推し進めていくことを期待するものであります。

また、平成28年10月からはマイナンバーカードを利用した各種証明書のコンビニ交付を開始し、土日祝日や夜間など、役場が開いていないときでも住民票の証明書を取得でき、住民サービスの向上につながる取り組みであります。

その他にも、行政サービスの平準化やスクラップアンドビルドの観点から実施した敬老祝い金事業や学校徴収金事業の見直しなど、財政健全化に向けた取り組みに対して評価するものであります。

最後に、震災からの真の復興をなし遂げ、さらに発展するまちづくりを推進するとともに、総合計画の基本理念に掲げる「ひと・ところ・まち しあわせ共創のステージ」の実現に向け邁進するよう強く要望し、賛成討論とします。

○委員長（後藤 哲君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより認定第1号 平成28年度利府町一般会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

○委員長（後藤 哲君） 起立多数です。したがって、本案は原案のとおり認定すべきものと決定しました。

次に、認定第2号 平成28年度利府町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論はありませんか。最初に反対討論。5番 安田知己君。

○安田知己委員 認定第2号 平成28年度利府町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について、討論を行います。

平成28年度国保会計の歳入総出額は34億8,964万6,000円で、前年度より5,744万7,000円、1.67%の増額であります。歳出総額は34億842万円で、前年度より7,552万3,000円、2.2%の増額ありました。

平成28年度決算として、実質収支額は8,122万6,000円の黒字であり、このうち4,100万円が基金に積み立てられ、残りは翌年度へ繰り越しとなりました。当年度の基金合計は2億239万8,089円であります。

この会計で大きな支出は町民の健康保持、疾病治療という目的にあり、国民皆保険制度のもとでこの事業の重要性と意義は評価するものであります。これまでも予算、決算の討論で何度も述べてきていますが、町の国保財政が年々厳しくなっている最大の要因として、国が地方自治体の国保会計に対して大幅な予算削減を行ってきたことにあります。町として、この国の政治に対して以前の補助率に少しでも戻すよう、しっかりと声を上げていくことが必要かと思えます。

町の国保の状況を見ますと、この間、数度にわたる国保税の引き下げがありましたが、国保に加入している町民からは依然として国保税の支払いが大変だという声が少なくありません。さらに言えば、国保税は何とか支払うことができても、治療時の自己負担を考えて治療を控えてしまうというケースも考えられます。この対策としての国保法第44条を町民が積極的に活用できるよう、町として支援に努める必要もあると思えます。

国保制度はほかの医療保険制度とは違い、収入の少ない加入者が多いのも特徴です。こういう実態を踏まえ、町として国保加入者が無理なく支払うことができる国保税体系の検討が必要だと思えます。

あわせて平成28年度決算では、短期被保険者証が118世帯、資格証明書が15世帯に発行されています。町民の医療を受ける権利を妨げる可能性のあるこれらの発行には慎重な対応をすべきであります。

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

国民健康保険法の第1条には、国保は社会保障であると示されています。国民皆保険制度の立場から、能力に応じた負担で、いつでもどこでも誰でもが保険証一枚で必要な医療が受けられる国民健康保険制度にすることが大切です。無理なく支払うことができる国保税、短期被保険者証や資格証明書の発行、この2つの問題を指摘しまして、国保会計決算に対する反対討論とします。

以上です。

○委員長（後藤 哲君） 次に、賛成討論。9番 高久時男君。

○高久時男委員 それでは、認定第2号 平成28年度利府町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について、賛成の立場で討論いたします。

平成28年度の歳入は約34億9,000万円、歳出は約34億850万円でありました。歳入全体の収入率は94.9%で、平成27年度より0.8%上回りましたが、直接加入者が負担する国民健康保険税は収入済み額構成比で18.9%の約6億6,090万円で、平成27年度より金額で約1,190万円減っております。

歳出では、保険給付費が約21億6,100万円で、歳入全体の63.4%を占め、平成27年度より約1億6,800万円ふえております。依然として医療費は増加傾向にあり、その削減が大きな課題ではありますが、現役を引退した高齢者が年々ふえていく中で医療費の増加はやむを得ない状況でもあります。

国民健康保険加入者の健康保持が重要になりますが、平成28年度に認定したデータヘルス計画に基づき、各種保健事業を実施し、加入者の健康保持と医療費の削減に努めていることがうかがえます。

国民健康保険特別会計の規模が年々大きくなる中で、加入者からの国民健康保険税収入は毎年減ってきております。このような厳しい状況の中でも、本会計の決算は町民負担の公平性を保ち、適切に執行されたと考え、賛成いたします。

以上です。

○委員長（後藤 哲君） ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより認定第2号 平成28年度利府町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

本案は原案のとおり認定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○委員長（後藤 哲君） 起立多数です。したがって、本案は原案のとおり認定すべきものと決定しました。

次に、認定第3号 平成28年度利府町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより認定第3号 平成28年度利府町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり認定すべきものと決定しました。

次に、認定第4号 平成28年度利府町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより認定第4号 平成28年度利府町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり認定すべきものと決定しました。

次に、認定第5号 平成28年度利府町下水道特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより認定第5号 平成28年度利府町下水道特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり認定すべきものと決定しました。

次に、認定第6号 平成28年度利府町町営墓地特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより認定第6号 平成28年度利府町町営墓地特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり認定すべきものと決定しました。

次に、認定第7号 平成28年度利府町水道事業会計決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより認定第7号 平成28年度利府町水道事業会計決算の認定についてを採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

平成29年9月決算審査特別委員会（9月15日金曜日分）

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（後藤 哲君） 異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり認定すべきものと決定しました。

以上をもって、本委員会に付託された平成28年度利府町各種会計決算の審査は全部終了しました。

なお、**委員会報告書の作成**については、私に一任願います。

これで利府町議会決算審査特別委員会を閉会します。

どうも御苦労さまでした。

午前10時02分 閉 会

上記会議の経過は、事務局長鈴木則昭が記載したものであるが、その内容に相違がないことを証するため署名する。

平成29年9月15日

委 員 長